

# 巻機山山行記録



目的地	巻機山	期 日	平成20年4月27日(日):曇一時晴れ
山行人	笠原正雄・中野茂・森山トシ子・伴場 C・清水 R・土田 M	特 記	初めての残雪巻機山

地 点 名	時 刻	記 事
与板発	5:00	中野、森山と出発。石動PでMを拾う。高速利用。
桜坂 P	6:30	埼玉からのCとRも同時に到着した。10台程あり。桜が咲き始めた。朝食。
歩き出し	6:55	雪に上がる。林道は一部地面が出ていたが、またすぐに残雪歩きとなる。夏道ルートは分からなくなる。喬木が雪で寝ていて藪コギを強いられる。
3合5勺	7:10~7:25	後続のCから「夏道はあるの?」と声が掛かった。「あるよ」と答えたが、実はその時点では、まだ夏道に上がってはいなかった。支尾根の夏道にあがり休む。ドット汗をかいて一枚脱ぐ。暫らくすると道は再び雪の下となり、分からなくなる。
休 む	8:05~8:25	藪から開放されて、ブナ急登を終える。6合目展望台の少し上の尾根夏道に上がり休む。曇りで遠望はないが、米子沢の対岸は見える。
霧 となる	9:05~9:15	ブナ林急登をぬけ、雪原登りとなる。なだらかな斜面となり、休む。位置は分からない。霧で視界が無いが、踏み跡もあり、上へ進む。
夏道に上がる	9:40	雪が割れている。割れた下は夏道のような。左右両方にトレースがあったが、下り足跡のある左のものを拾いながら進む。直角右折して夏道に上がる。
7合5勺		ずっと夏道が続く。薄日が差してきて暑くなる。
8合目	10:00~10:10	ニセ巻機の手前、ここから再び雪に上がる。ガスが降り始め、米子頭が現れて来た。休んでいるうちに急速に霧が晴れ、谷川連峰が見えた。下界の清水集落も見下ろせる。ニセ巻機方向から青空が広がってくる。素晴らしい景色に出会えた。中腹幕営と思われる男性二人が軽装で下山して来た。
ニセ巻機	10:30~10:40	8合目からは、思い思いに歩いてここに上がる。途中2人の山スキーとスライド。ニセ巻機ピークは雪が剥げていた。良く晴れて割引岳、御機屋が青空に映える。
巻 機 山	11:10	避難小屋は屋根だけが出ていた。裏側の2階から出入りが出来るようだ。鞍部からの登り返しで夏道ルートは一部ブッシュが出ていた。晴れの登りも山頂間近になるとガスが出て来て、視界が無くなる。ピークに上がり御機屋付近と思われるが、目標となるものは何も無い。風も出てきて、割引岳方向にやや下り、立ち木の風下にスコップでランチ場を設営。フライパンで焼きうどんを作る。
下山開始	12:35	ランチの途中からますますガスが濃くなり、風も強くなり寒くなった。もう少しゆっくりしたかったのだが、予定を早めて下山開始とする。視界は10m以下。足元の踏み跡を見失わないように進む。
ニセ巻機手前	1:05~1:10	ガスの流れで御機屋が見え隠れしている。なかなか幻想的な景観である。平坦地で全員写真をセルフタイマーで撮るも、そうこうしていると、駒ヶ岳まで縦走するという4人パーティーがやって来た。彼らにシャッターを押して貰う。
雨ズボンを穿く	1:40	露出した夏道を終えガスも薄くなる。樹林に入る手前で、俺とMはシリセード用にズボンを穿く。10分後、その間先行した4人が待っていてくれた所に追付く。
6合展望台付近	2:00	シリセードを混じえながらのブナ林の快適な下りから藪に入る。
桜 坂 P	2:40	夏道を拾いながら進むのだが、途中から不明となり、上山時と違ったルートで進んだ所もある。ゆっくり帰宅準備をしていると、パトカーがやって来た。スワッ、アルコールチェックか?。いやいや単なる巡回で、笑顔で他の入山者を尋ねられたのみ。森山さん「トッテモ楽しかったデス」。C、Rと別れ下道で帰宅。

毎年連休頃に行っていた駒ヶ岳は、今年は3月末に行く機会を得た。今春は以前より狙っていた巻機山に向かうこととした。城山山開きの際話を出し、一方、ネットを通じてC、R、Mも同行することとなり楽しい山行となった。歩き始めて6合展望台付近までは、時折藪コギを強いられて難儀をさせられるが、それを過ぎれば、無雪期とは全く違った魅力を見せてくれる。特にブナ林の登りはとても気分が良い。一方、曇りから晴れとなり、そしてガスに覆われるという移り変わるお天気も我々を楽しませてくれた。